

## 1 題材名 日本の民謡に親しもう～日本の民謡をたずねて～

## 2 指導の立場

<子どもの実態から>

子どもは、「ソーラン節」の学習で、民謡の背景や歌詞の意味を手がかりに、民謡の雰囲気合った楽器やリズムの特徴を捉えてきた。そこでは、聴き取ったことと感じ取ったこととを関連付けながら思いや意図をもって表現する姿が見られた。このような子どもが、日本各地に伝わる民謡を知り、民謡ならではの音楽的な特徴について発見したり、曲が作られた背景についてさらに深く調べたりする活動に取り組めば、民謡の特徴と人々との暮らしとの関わりについて興味・関心をもち、日本の民謡に親しむことができるだろう。

そこで題材を構想するにあたっては、次のような設定をする。

<題材について>

本題材は、表現や鑑賞の活動を通して、日本の様々な民謡に親しむことができる教材といえる。子どもは、調べた民謡をグループで聴き合う活動を通して、民謡ならではの音楽的な特徴を発見したり、曲が作られた背景と人々の生活との関わりがあることに気付いたりするだろう。ここでは、いろいろな民謡を聴き比べ、民謡のよさや面白さを感じ取ったり、曲が作られた背景があることに気付いたりする姿を大切にしたい。

そこで、指導にあたっては、次の点に留意する。

<指導上の留意点>

- 第一次では、「こきりこ節」が歌われる場面や地域を紹介し、曲の背景を意識して仲間と聴き合いながら歌わせることで、曲が作られた背景と音楽的な特徴との関連に気付くことができるようにする。
- 第二次では、調べた民謡のよさや面白さの根拠を問いつけ合う場を設定することで、曲が作られた背景と音楽的な特徴とを関連付けることができるようにする。
- 題材の終わりに、見いだした民謡のよさや面白さを探らせる。そうすることで、民謡ならではの音楽的な特徴に気付いたり、曲が作られた背景を大切にしたりすることができるようにする。

## 3 目標

- (1) 民謡の曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて歌う技能を身に付ける。  
〔知識及び技能〕
- (2) 民謡の旋律や音色、リズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、演奏のよさを見いだして聴いたりしている。  
〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) 我が国に伝わる音楽の特徴や、それらと人々の暮らしとの関わりについて興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組み、日本の民謡やその表現に親しむ。  
〔学びに向かう力、人間性等〕

#### 4 well-beingにつながる学びについて

本学園では、well-beingを「個人だけでなく、社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態」と捉えている。well-beingの実現には、教科等の本質に迫る授業で身に付けた資質・能力を、人生において自在に発揮できる子どもを育成することが必要不可欠である。そのためには、エージェンシー（変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力）の育成及び発揮が重要な課題であると考えている。

本学園の音楽部では、音楽的な見方・考え方を働かせながら、仲間と協働して音や音楽に積極的に関わっていく子どもを育成する授業が、教科の本質に迫る授業と捉えている。また、エージェンシーを発揮している姿を、音楽の見方・考え方を働かせながら民謡のよさや面白さを探ったり、音楽的な特徴を比べながら聴いたりしている姿だと捉えている。本題材においては、日本各地に伝わる民謡を一つ選び、その民謡のよさや面白さについて発表する場を設定する。これまで学習した民謡と比べながら曲のよさや面白さを探ったり、発見したりする姿がエージェンシーを発揮した姿だと考えている。

このような学習を経験した子どもは、これまで学習した民謡や、生活の中で聞こえてくる郷土の音楽に自然と耳を傾けるようになり、仲間とともに音楽のよさや面白さを感じることができるようになるだろう。また、自分たちなりに音楽表現を深めていくことで、心から音楽が楽しいと思えるようになり、それらはwell-beingの実現につながるだろう。

#### 5 指導と評価の計画（総時数 4時間）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>知</b> 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 <b>技</b> 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けている。	<b>思</b> 民謡の旋律や音色、リズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったり、演奏のよさを見いだして聴いたりしている。	<b>態</b> 我が国に伝わる音楽の特徴や、それらと人々の暮らしとの関わりについて興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。

次	学習活動・内容	エージェンシーを発揮するための手立て	知・技 思 態		
			〈 〉内は評価方法		
一 ①	○ 「こきりこ節」が作られた背景を知り、歌唱する ・作られた背景 ・音楽的な特徴 ・身近な地域の民謡の存在	○ 「こきりこ節」が歌われる場面や地域を紹介し、曲の背景を意識して仲間と聴き合いながら歌わせることで、民謡の雰囲気を感じ取ることができるようにする	↓ (観察)		
二 ③ 本 時 3 / 3	○ 日本各地に伝わる民謡の中から一つ選んで調べる ・曲が作られた背景 ・音楽的な特徴  ○ 調べた民謡のよさや面白さについてグループで話し合う ・調べた民謡のよさや面白さの根拠 ● 調べた民謡を発表する ・他のグループの民謡のよさや面白さ ・曲が作られた背景と音楽的な特徴との関連	○ 「こきりこ節」のよさと面白さを比べながら聴かせることで、調べた民謡にも作られた背景や音楽的な特徴があることに気付くことができるようにする  ○ 調べた民謡のよさや面白さの根拠を問い合う場を設定することで、曲が作られた背景と音楽的な特徴とを関連付けることができるようにする  ○ 見いだした民謡のよさや面白さを探らせることで、民謡ならではの音楽的な特徴に気付いたり、曲が作られた背景を大切にしたりすることができるようにする	↓ (記述) (聴取)	↓ (記述) (聴取)	↓ (記述) (発表)

6 本時案 ー第二次・3時分ー

- (1) 主眼 グループで調べた民謡の音楽の特徴を聴き取ったり感じ取ったりする活動を通して、民謡のよさや面白さを探り、発見することができる。
- (2) 準備 タブレット，ワークシート
- (3) 学習の展開

学習活動・内容（発問）	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
<p>1 民謡の特徴を予想する</p> <p>民謡にはどんな特徴があるのかな</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌い方</li> <li>・楽器の音色</li> <li>・リズム</li> <li>・曲が作られた背景</li> </ul>	<p>ア 民謡は声の出し方が独特だね</p> <p>イ 民謡には和楽器が使われていたよ</p> <p>ウ グループで民謡を聴き合ったとき，リズムに違いがあったよ</p> <p>エ 作られた背景と曲の感じがどのようにつながっているのか，他の民謡も聴いてみたい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時に調べた民謡の特徴を振り返らせる。そうすることで，音楽を形づくっている要素に着目しながら鑑賞することができるようにする。</li> </ul>	5
<p>2 グループで調べた民謡について紹介する</p> <p>それぞれの民謡を聴いて感じたことは何かな</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民謡の音楽的な特徴</li> <li>・曲が作られた背景</li> </ul>	<p>ア この民謡は豊漁を祈る曲で，弾んだリズムが出てくるところが特徴だよ</p> <p>イ リズムが弾んでいるから歌っている人の気持ちが明るいのと思ったよ</p> <p>ウ 使われている楽器は和楽器だね。2つ組み合わせられているから音の重なりが面白かったよ</p> <p>エ この民謡はお祭りで歌われている曲だよ。伴奏は同じリズムで刻まれているよ</p> <p>オ 合いの手がある曲だね。お祭りで歌われる曲だからかな</p> <p>カ リズムにのりやすい曲だね。太鼓の音リズムの中心になっているからかな</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他のグループの民謡を聴いたあとに，感じたことを発表させる。そうすることで，その民謡のよさを広げることができるようにする</li> <li>・ 何がきっかけで生まれた民謡なのか伝えさせる。そうすることで，民謡の種類について気付いたり，曲が作られた背景を大切にしたりすることができるようにする</li> <li>・ 紹介した後に音源を聴かせる。そうすることで，曲の特徴が相手に伝わるようにする</li> </ul>	35
<p>3 本時の学習を振り返る</p> <p>民謡のよさや面白さは何かな</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲が作られた背景と音楽的な特徴の関連</li> </ul>	<p>ア 声の出し方が面白かったよ。民謡独特の歌い方が気に入ったな</p> <p>イ 曲が作られた背景によって，音楽的な特徴が違うから面白いね</p> <p>ウ 民謡は人々の願いや思いから作られているところがよいと思ったよ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見いだした民謡のよさや面白さを探らせることで，民謡ならではの音楽的な特徴に気付いたり，曲が作られた背景を大切にしたりすることができるようにする</li> </ul>	45

(4) 評価規準と方法

グループで調べた民謡の音楽的な特徴を聴き取ったり感じ取ったりする活動を通して，民謡のよさや面白さを探り，発見することができたか，発表やワークシートの記述からみとる。

<メモ>

## 1 題材 歌詞と旋律が生み出す雰囲気を生かして歌おう～荒城の月～

## 2 指導の立場

<子どもの実態から>

子どもは、合唱や歌唱に意欲的であり、これまでに数曲の日本歌曲を学習してきた。「夏の思い出」では、比較的歌いやすい旋律とイメージしやすい尾瀬の情景とを手がかりに、強弱や速度記号に込められた思いを想像しながら、のびのびと歌唱することができた。「荒城の月」はこれまでの歌曲と大きく異なり、全体が短調であることや速度が遅いことで歌いづらいと感じるだろう。しかし、歌詞が表す情景や心情を思い浮かべることができれば、短調で速度が遅いからこそできる表現の工夫について考えることができるだろう。

<題材について>

本題材は、古くから歌い継がれてきた日本歌曲の美しさを感じながら歌うことをねらいとしている。栄枯盛衰を歌ったこの曲は、土井晩翠の詩に滝廉太郎が作曲をしたが、後に山田耕筰によって編曲されたものが発表された。原曲と編曲の主な違いは、速度と音程である。西洋音楽の先駆者である滝廉太郎が旋律の一音にシャープを使用したのは有名であるが、それに対して、山田耕筰は半音下げて編曲をした。半音の違いによってもたらされる曲調の違いを味わえる曲である。また、七五調で書かれた歌詞には、土井晩翠の「無常」の思いが描かれている。世の中の「無常」と、いつも変わらぬ月の美しさの対照を歌詞から感じ取ることで、短調の哀愁帯びた旋律を味わいながら表現を工夫することができると思う。

<指導上の留意点>

- 原曲と編曲された2曲を比較聴取することで旋律や速度がもたらす曲の雰囲気の違いに気付くことができるようにする。それぞれの音楽の特徴を捉えることによって、どちらの曲を好むか、根拠をもてるようにする。
- 思考・判断のよりどころを「旋律」「速度」に絞って表現を深めていく過程で、試行錯誤することで、音楽の見方・考え方を働かせることができるようにする。
- グループごとの発表で質疑応答をする。そうすることで、表現の工夫の意図や根拠を明確にさせるとともに、さらによりよい表現方法をみんなで追究できるようにする。

## 3 目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につける。 (知識及び技能)
- (2) 「荒城の月」の旋律と強弱と速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「荒城の月」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 「荒城の月」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。 (学びに向かう力、人間性等)

#### 4 well-beingにつながる学びについて

本学園では、well-beingを「個人だけでなく、社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態」と捉えている。well-beingの実現には、教科等の本質に迫る授業で身に付けた資質・能力を、人生において自在に発揮できる子どもを育成することが必要不可欠である。そのためには、エージェンシー（変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力）の育成及び発揮が重要な課題であると考えます。

本学園の音楽部では、音楽的な見方・考え方を働かせながら、仲間と協働して音や音楽に積極的に関わっていく子どもを育成する授業が、教科の本質に迫る授業と捉えている。また、エージェンシーを発揮している姿を、音楽的な見方・考え方を働かせながら曲の魅力を探り、試行錯誤しながら歌唱表現を工夫している姿だと捉えている。本教材においては、原曲と編曲を比較聴取して、日本歌曲の歌詞や旋律が生み出す雰囲気味わえるようにしたり、「なぜ、このような表現がしたいのか」を子ども同士でやりとりできる場面を設定したりする。仲間の表現方法を吟味したり、疑問をもったりすることで、自分が気付かなかった表現方法に出会い、仲間の良さを取り入れようとしたり、新たな表現方法を追究してみたいと思えたりする様相がエージェンシーを発揮した姿だと考えている。

このような学習を経験した子どもは、これまで学習した日本歌曲や、生活の中で聞こえてくる日本歌曲や郷土の音楽に自然と耳を傾けるようになり、生活の中で日本の文化・歴史を大切にしたいと思えるようになるだろう。また、仲間とともに試行錯誤しながら音楽表現を深めていく過程が心から楽しいと思えるようになり、それらはwell-beingの実現につながるだろう。

#### 5 指導と評価の計画（総時数 4時間） 評価規準はメモに記載

次	学習活動・内容	エージェンシーを発揮するための手立て	知・技 思 態		
			〈 〉 内は評価方法		
一 ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 曲の背景を知る               <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の雰囲気</li> <li>・作曲者と編曲者</li> <li>・歌詞の大意と曲の背景</li> </ul> </li> <li>○ 2種類の楽譜を比較して歌う               <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜の相違点の理解</li> <li>・記号の理解と正しい音程の習得</li> <li>・曲種に応じた発声</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 知覚したことと、感受したことを結びつけながら曲の魅力を伝え合うことで見方・考え方を働かせる</li> <li>○ 2種類の荒城の月を比較聴取させることで、どちらの方が自分の感性に合っているか選択できるようにする</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">知</div> 〈ワークシートやジャムボードへの記入〉		
二 ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 表現したいことを、根拠をもって説明したり、歌唱したりする               <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律と歌詞の関わり</li> <li>・自分の（自分たち）の思い</li> <li>・曲の背景</li> <li>・背景を表現するための工夫（表現するために必要な技能の確認）</li> <li>・発声方法の工夫</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 旋律・速度に着目をしながら、曲の背景にふさわしい表現の方法について試行錯誤しながら協働的に学習できるようにする</li> <li>○ 自分たちの思いと、思いを表現するために必要な歌唱技能を連動させながら主体的・協働的に歌唱に取り組めるようにする</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">知</div> 〈観察〉	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">思</div> 〈観察〉 〈ジャムボードへの記入〉	
三 ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分たちの歌唱表現を提案発表する               <ul style="list-style-type: none"> <li>・相互鑑賞会</li> <li>・質疑応答</li> <li>・表現の多様性や妥当性</li> <li>・学習の振り返り</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「なぜそのような表現方法にしたのか」子ども同士が根拠を問いつけ合う場を設定することで、自分たちで学びを深めるきっかけをつかめるようにする</li> <li>○ 多様な表現方法を知ると同時に、曲の背景に合った表現であるか、その妥当性について考えられるようにし、より曲の良さを引き出せる表現を追究できるようにする</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">技</div> 〈演奏〉 〈歌唱〉		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">態</div> 〈観察〉 〈ジャムボードへの記入〉

6 本時案 ー第2次・1時分ー

- (1) 主眼 曲の背景を手がかりに根拠をもって伝え合う活動を通して、表現を工夫して歌唱できるようになる。
- (2) 準備 楽譜，タブレット端末
- (3) 学習の展開

学習活動・内容	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
<p>1 滝廉太郎か山田耕筰，どちらの曲の表現を深めていくのか決める</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">どちらの曲を歌いたいか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの曲の特徴の把握（前時の復習）</li> <li>・2曲の歌唱</li> <li>・歌唱曲の選択</li> </ul>	<p>ア 原曲は速度が速いから歌いやすそうだ</p> <p>イ 原曲は休符が多く，ブレスがしやすそうだ</p> <p>ウ 原曲は井があり，滝廉太郎の西洋音楽への関心が伝わってくるからこちらがいいな</p> <p>エ 編曲された方は曲の最初の指示語が詳しいから表現しやすそうだ</p> <p>オ 編曲の方が半音下がっていて音程が取りやすそうだけれど，速度が遅いから歌いにくそう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に学習したことを踏まえて歌唱するように促す</li> <li>・それぞれの曲にどのような特徴があったのか，音楽を形づくっている要素について考えさせる</li> <li>・休符の有無，半音の音程，2曲の速度の違いを意識して伴奏をする</li> <li>・どちらが良いか悪いかの判断ではないことを伝える</li> </ul>	10
<p>2 どのように表現していくのか，根拠を伝え合いながら歌唱する</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">曲の背景を手がかりにして，どのように表現したいか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2曲の楽譜の比較</li> <li>・ジャムボードへの記入</li> <li>・旋律と速度</li> </ul>	<p>滝廉太郎</p> <p>ア 出だしがmfだけれど，3番と4番は現実を歌っているからmfの指定があるけれどfのようにしたいな</p> <p>イ 最後はクレッシェンドになっていくのがいいね</p> <p>ウ 旋律の音が上行下行に比べて強弱記号があるのでそこは大きめに表現したい</p> <p>エ Andanteと八分音符から，哀しい感じよりも現実を表しているような気がする</p> <p>山田耕筰</p> <p>ア Lentoの速度は緩やかにだけれどどれくらい緩やかにするか考えよう</p> <p>イ pが多いから悲しい雰囲気を出すように歌いたい</p> <p>ウ 千代の松ヶ枝がfでリズムが変化しているのは，古い松の歴史を表現しているんだろうか</p> <p>エ fの指定があるのはなぜだろう</p> <p>ア 息を長く続けるためには，腹式呼吸をゆっくりしたほうがいい</p> <p>イ 歌詞を伝えるためには，子音を前に出して歌おう</p> <p>ウ 音の上行とクレッシェンドを表現するために上半身を前傾めりにして歌おう</p> <p>エ 身振り手振りを使おう</p> <p>オ 鼻濁音の練習をしてみよう</p> <p>カ 1番から4番までの過去と現在の歌分けをしてみたい</p> <p>ア 難しい曲だけれど，みんな表現方法を考えたら歌うことができた</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選曲した理由とともに，表現したいイメージを付箋で貼らせることで見易くさせる</li> <li>・考え方を結びつけやすくさせる（形づくっている要素→水色イメージしたこと→黄色）</li> <li>・原曲はmf以外に指定と無いことを伝えることで，自分たちでフレーズのスタートを自由に工夫できることに気付かせる</li> <li>・強弱記号に着目した場合は，記号が意味しているイメージを記入するように伝える</li> <li>・それぞれの曲の特徴について前時に学習した内容【2人の作曲家について，歴史，歌詞の大意，曲調など】を提示する</li> </ul>	25
<p>3 グループ練習をする</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">どのような歌い方をすれば表現したいことが伝わるか</p>	<p>ア 息を長く続けるためには，腹式呼吸をゆっくりしたほうがいい</p> <p>イ 歌詞を伝えるためには，子音を前に出して歌おう</p> <p>ウ 音の上行とクレッシェンドを表現するために上半身を前傾めりにして歌おう</p> <p>エ 身振り手振りを使おう</p> <p>オ 鼻濁音の練習をしてみよう</p> <p>カ 1番から4番までの過去と現在の歌分けをしてみたい</p> <p>ア 難しい曲だけれど，みんな表現方法を考えたら歌うことができた</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・録音や録画をしてもよいことを伝える</li> <li>・曲の背景をふまえたうえで表現の妥当性を考えさせる</li> <li>・極端な速度の変化については曲の背景に合っているかどうかを基準にするように促す</li> <li>・表現について他のグループから質問されたらきょうに理由を伝えられるように根拠を明確にしたうえで歌唱させる</li> <li>・次回，相互鑑賞会をして質疑応答をしていくことを伝える</li> </ul>	45
<p>4 振り返りをする</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">表現するうえで大切にすることは何か</p> <p>・GoogleFormsへの記入</p>	<p>ア 難しい曲だけれど，みんな表現方法を考えたら歌うことができた</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・録音や録画をしてもよいことを伝える</li> <li>・曲の背景をふまえたうえで表現の妥当性を考えさせる</li> <li>・極端な速度の変化については曲の背景に合っているかどうかを基準にするように促す</li> <li>・表現について他のグループから質問されたらきょうに理由を伝えられるように根拠を明確にしたうえで歌唱させる</li> <li>・次回，相互鑑賞会をして質疑応答をしていくことを伝える</li> </ul>	50

(4) 評価規準と方法

曲の背景を手がかりに、表現方法について根拠をもって他者と伝え合ったり、表現したいことを歌唱で表そうとしたりしているか、活動の観察やジャムボードへの記入からみとる。

<メモ>

本題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b> 「荒城の月」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容と関わりを理解している。</p> <p><b>技</b> 創意工夫した表現で「荒城の月」を歌うために必要な発声、発音、身体の使用方などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p>	<p><b>思</b> 「荒城の月」の旋律・速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「荒城の月」にふわさしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p>	<p><b>態</b> 「荒城の月」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>